

～聴覚障害教育担当者研修会～

5月26日木曜日、本校で難聴幼児児童生徒の担当をされている先生方との、聴覚障害に関する基礎的な内容を学ぶ研修会や、情報交換会を行いました。

特別支援部は「難聴児の理解と支援」について、聴能部は「きこえのしくみと疑似体験」の講座を行いました。

【難聴児の理解と支援】

○難聴児の心理面の話や幼児児童生徒にとってきこえやすい環境作り、起こりやすい人間関係のトラブルなどに加え、普段の授業のことや入学試験での支援方法について説明しました。参加された先生方はご自身の担当している幼児児童生徒をイメージしながら聞いておられました。また、日頃感じている幼児児童生徒への支援方法の悩みを先生と話し合うことで、他校の取組も聞けて良い情報交換の場になりました。

【きこえのしくみ】

○聞こえの仕組みや本校の聴力測定結果の見方、補聴器の構造や取り扱い方、難聴児にとって聞こえやすい話し方などについて話をしました。また、「聞こえる」＝「意味が理解できる」ということではなく、「聞こえる」にも「音の有無がわかる」「音の区別がわかる」などの段階があることや視覚情報の重要性、補聴器の正しい扱い方などの話をしました。

【疑似体験】

○疑似体験では、雑音の中でヘッドホンをつけて周りの音が聞こえにくい状態で話し合ってもらったり、集団行動をしたりしてもらいました。話や指示の内容を体験者に伝えるために、周りの先生方の様々な工夫が見られました。

【疑似体験の感想】

- ・話を聞くために集中する必要があるので体力的に疲れる。
- ・雑音と話し声が聞き分けられない。
- ・自分の声の大きさが分からない。
- ・返事が聞き取れない時に、聞き返せないで分かってるフリをしてしまう。
- ・周りがなぜ笑っているのか分からない。
- ・周りの行動を見ながら合わせてなんとなく動いた。

(何度も聞き返すことを遠慮してしまう)

【体験の中で助かったこと】

- ・数を伝える時、周りの人が手で表してくれたのでわかりやすかった。
- ・話し合いの時に、皆が話者に対して視線を向けるので、誰が話しているか分かりやすかった。
- ・自分が話してる時にうなずきをしてくれたので安心できた。



研修会終了後は、希望された先生方と、学部、学年、教科に分かれて支援方法で悩んでいることを本校の教員と話をする時間を設けました。

今回の研修会が、聞こえにくい幼児児童生徒に対する支援や、聴覚障害についての理解を深める研修会になったのであれば幸いです。
(文責：岡野、山中)

ろう学校のプール学習について



コロナの感染がまだ完全には収まりきっていませんが、本校では2年ぶりにプール学習が始まります。感染予防をしながらの学習にはなりますが、補聴器や人工内耳を外した児童生徒たちにどのように指導や支援を行っているのかを、今回紹介したいと思います。

〔プールに入る前〕

まず、児童生徒は、水に弱い補聴器や人工内耳などの補聴機器を教室で補聴器ケースに入れて置いておきます。事前に児童生徒に外すように伝えていても、うっかり外すのを忘れてしまっている児童生徒もいるので、入前にももう一度確認しておくとう安心です。

〔プール入るとき〕

○旗を使う

本校のプール学習では、「手話」「指文字」「旗」を使って指示を出します。旗を上げると「プールサイドに近づきましょう。」旗を下げると「プールサイドに座りましょう」、旗をプールの方に振ると「ゆっくり水に入りましょう。」という指示で統一している学年もあります。また、旗を使わない場合にもはっきりと大きな手話をして、合図をしています。このように視覚的にわかりやすい指示をすることで、児童生徒たちも安心してプールに入ることができます。



○見本を見せる

これは、どの学校でも行っていることだと思えますが、本校でも手話での説明とともに、実際に見本を見せる時間を多く取っています。どういう体の動きをするのか、どういう行動をするのか見本を見せて説明した後活動させています。

〔プールから出た後〕

プールが終わった後もすぐに補聴器や人工内耳を耳に装着するのではなく、髪の毛をしっかりと乾かし、耳の中に水がたまっていないかを確認してから装着しています。もし、耳の中に水がたまっていたり、濡れていた場合には、ティッシュや綿棒で拭き取ります。髪の毛や耳の中が濡れていると、補聴器の故障に繋がります。

本校と同じように、今年度からプールが再開した学校も多いのではないのでしょうか。児童生徒たちが楽しく安全にプール学習ができるように、様々なことに注意しながら指導・支援を行っていただけると幸いです。

補聴器を「落としたとき・拾ったとき」の対応について

〔落としたとき〕

補聴機器を紛失した時は、まずは警察へ遺失物届を提出しましょう。紛失保証のある補聴器の場合、保証を受けるために遺失物届のコピーなどが必要になります。紛失保証の内容についてもしっかりと確認しておきましょう。GPS追跡機能のついた補聴機器ではアプリから探すこともできるので、事前にアプリをダウンロードしておきましょう。

〔拾ったとき〕

補聴機器を拾ったときは近くの補聴器専門店か警察に届けるようにしましょう。補聴器にはそれぞれに製造番号があり、照会することで持ち主を特定することができます。警察に届ける場合には、製造番号があることを知らない場合もあるので、伝えるようにしましょう。



〔紛失しないために〕

紛失しないためにも、幼いお子さんには、落下防止ストラップを付けるのが効果的です。

〔警察へ補聴器が届けられた際の流れ〕

- ① 警察署から製造番号をメーカーへ問い合わせ
- ② 警察またはメーカーから販売店へ連絡
- ③ 販売店から顧客への連絡

